

ジュニア賞 受賞糧に感性磨いて

本社 大賞の前田さんら表彰

第16回ふくいジュニア文学賞(福井新聞社、県小中高校教育研究会国語部会主催、三谷市民文化振興財団特別協賛)の表彰式が23日、福井新聞社

・風の森ホールで行われ、大賞に選ばれた福井市進明中2年の前田真紀さんら入賞者99人が表彰された。

県内の小中高校生14

34人から▽エッセー▽小説▽創作童話▽詩▽短歌▽俳句の6部門に2139点の応募があり、

大賞1点と優秀賞16点、秀作36点、佳作46点を選んだ。

表彰式には、入賞者と保護者ら約200人が出席した。審査委員長を務めた児童文学者の藤井則行さんは講評で「良い作品を書くには、普段見え

なかったことや聞こえなかったことを、見て聞いて考えて深めていくことが大事。大賞の作品は、見える目や聞こえる耳で

はなく、「見る目」と「聞く耳」で鋭い観察力を生かした」と、能動的に感性を磨き表現する重要性を指摘。「受賞を機に、ますます目と耳を研ぎ澄ましてください」と呼び掛けた。



ふくいジュニア文学賞の表彰式で、大賞の表彰を受ける前田さん＝23日、福井新聞社・風の森ホール

本社の五十嵐利幸取締役事業局長は「今年もみずみずしい作品がそろい、感動をいただいた。来年も良い作品を書いてほしい」とあいさつした。入賞者には五十嵐局長と藤井さんから賞状と記

念品が手渡された。優秀賞以上の入賞作17点はタブロイド判の作品集に収録、12月上旬までに県内の小・中・高校に配布される。



ホームページに
動画ニュース
www.fukushimbun.co.jp